

ぼくのおとうさん

茨城県

リリーベール小学校二年

岡野 壮流

ぼくのおとうさんは、めったにおこらない人です。でも、ある日おとうさんはすごくおこりました。それは、ぼくがおかあさんに、

「いちいちうるさい。」

と行ってしまったからです。おとうさんは、それをきいていてぼくをよびました。

「たける、おかあさんにうるさいってどういうことだ。

おかあさんにあやまりなさい。」

ぼくは、いつものおとうさんとちがつて、ものすごくおこっているの、きょうはおとうさんとおふろにはいるのはこわくていやだなとおもいました。

「たける、さつきはおこつてわるかったな。おとうさんのおかあさんは、おとうさんがたけるよりもっと小さいときに、びょうきでしんでしまったんだよ。だから、おとう

さんにはわるいことをしてもしかつてくれるおかあさんがいなかったんだ。しかつてくれるおかあさんがいるたけるは、とてもしあわせなんだよ。わかるか。」

「うん。」

ぼくは、なみだができました。おとうさんはいつものやさしいおとうさんでした。ぼくは、「うるさい」なんていつてしまって、ほんとうにわるかったとおもいました。

「おかあさん、さつきはごめんなさい。」

おかあさんはうれしそうに、
「いいのよ。」
といました。

ぼく、おとうさんもおかあさんもだいすきだよ。
いつも、ありがとう。